



鈴木組DXビジョン

～ Beyond2030 ～

「想像の未来」から「創造する未来」へ

トップメッセージ

建設業界は今、就労人口の減少や働き方の多様化など、数多くの社会課題に直面しています。当社はこれらの変化に迅速に対応するため、2040年に向けた定量目標「従業員100名、売上100億円」の達成と、事業活動における生産プロセス（施工プロセス）の完全デジタル化（デジタルゼネコン化）を経営ビジョンとして掲げました。

個別工事ごとに「引き合い～受注～施工～請求～アフター」に至るまで、1つの3Dデータが途切れることなく引き継がれる一気通貫のフローを標準化し、抜本的な生産性向上を実現します。最新のデジタル技術を現場の「友」とし、「想像の未来」から「創造する未来」へとお客様への提供価値を高めるとともに、従業員がいきいきと働ける環境（ウェルビーイング）の実現を目指してまいります。

代表取締役社長 鈴木 健司



企業経営とIT活用の方向性

2040年の究極の目標

デジタルゼネコンへの進化

従業員100名、売上100億円

ビジョン（方向性）

「引き合い～受注～施工～請求～アフター」に至るまで、1つの3Dデータが途切れることなく引き継がれる「一気通貫のフロー」の標準化。

※本DXビジョンおよび戦略は、2025年11月4日の取締役会にて承認された「第6次中期経営計画」、「DXビジョンシート」および「第17期経営計画書」に基づき策定・公表しています。

DXの全体像と戦略

内部環境 × 知の深化

スマート化とペーパーレス

スマートデバイスの全社配備と、スマートオフィス化（ZEB化・フリーアドレス等）による徹底したペーパーレス環境を構築し、社内業務の効率を極限まで高めます。

外部環境 × 知の深化

施工プロセスの高度化

協力企業等とのデータ連携を強化し、BIM/CIMのフル活用によって施工プロセスの高度化・精緻化を実現。現場の生産性と品質を飛躍的に向上させます。

内部環境 × 知の探索

デジタル人材の育成

専任の「DX推進チーム」を中心とした社内教育体制を構築。全社員のITリテラシー向上と、高度なデジタル技術を駆使できる専門人材の育成に投資します。

外部環境 × 知の探索

デジタルゼネコンへの進化

1つの3Dデータで設計から施工、維持管理までを一気通貫させる「デジタルゼネコン」化を推進し、顧客に対する新たな建設サービスの価値を創造します。

デジタル・物理的環境の整備



システム環境の整備

スマートフォン/タブレットの全社配備と現場アプリの積極活用。グループ会社共通の基幹システムを中心とした強固なデジタルプラットフォームを構築します。



ハードウェア投資

次世代の建設プロセスであるBIM/CIMを快適に操作するため、選定メンバーに対して高スペックなノート型ワークステーションを配備しています。



スマートオフィスの構築

本社ZEB化リニューアルに伴い施工管理部門をフリーアドレス化。個人ロッカーやデジタルホワイトボードを導入し、クリアデスクとコラボレーションを促進します。

施工プロセスのデジタル化と業務最適化

施工プロセスのデジタル化

物理的な現場作業とデジタル情報を高度に融合させることで、生産性を飛躍的に向上させます。

- BIM/CIMを活用し、3次元データの作成から運用までを一部内製化します。
- 3Dデータを設計から施工管理まで一気通貫で活用する体制を整えます。
- ICT建機等とシステムを連動させたデジタルワークフロー化を実現します。
- 施工の可視化により、手戻りの削減と安全性の向上を図ります。

全体最適化と分業化

現場技術者が本来の「施工管理」に集中できる環境を組織的・システムの的に構築します。

- 専任の「DX推進チーム」を新設し、バックオフィス体制を強化します。
- 最新のデジタルツールを用いて、現場の事務作業や書類作成を専門部署へ分業化します。
- リモートからの現場支援体制を確立し、現場担当者の業務負荷を大幅に軽減します。
- 属人的な業務を標準化し、全社的な業務フローの最適化を実現します。

推進体制とデジタル人材育成

👥 専任の「DX推進チーム」

各部の代表メンバーから構成される「DX推進委員会」から発展させ、より機動力の高い専任の「DX推進チーム」を編成します。現場への直接的な技術支援を行うとともに、全社的なデジタルへの意識改革を牽引します。

🎓 全社的なデジタルリテラシーの底上げ

2030年までに全社員の「ITパスポート取得率50%」を目標に掲げています。デジタルツールを「導入する」だけでなく「使いこなす」組織文化を醸成し、従業員一人ひとりが自律的に業務改善を行える人材を育成します。



達成状況を測る指標（KPI）

当社のDXの進捗を客観的に管理・評価するため、以下の定量目標を設定しています。

人時生産性

10,000円

2040年を目標とし、デジタルゼネコン化による抜本的なプロセス改善で生産性を最大化します。

エンゲージメントスコア

3.7以上

ウェルネスを重視した現代風スマートオフィスへの刷新等により、働きやすさ（ウェルビーイング）を追求します。

時間外労働（現場担当者）

30h以下/月

ICT建機連動やバックオフィス部門（工事事務推進課）への業務分業化により、現場の負担を大幅に削減します。

※本DXビジョンおよび戦略は、2025年11月4日の取締役会にて承認された「第6次中期経営計画」「DXビジョンシート」および「第17期経営計画書」に基づき策定・公表しています。

情報セキュリティ体制

-  **経営方針** サイバーセキュリティを重大な経営リスクと位置づけ、2026年2月4日改定の「情報セキュリティ基本方針」を遵守します。
詳細：https://www.suzukigumi.co.jp/security_policy
-  **外部認証の取得** IPAが創設した「SECURITY ACTION」二つ星を宣言し、安全なIT活用の取り組みを推進しています（2026年2月9日完了）。
-  **内部統制の強化** 親会社である株式会社サーラコーポレーション監査部主導のもと、「情報セキュリティ自社診断（全27項目）」を定期的を実施し、現状の把握と改善を実行しています。
-  **インシデント・BCP対応** 災害時やインシデント発生時は、グループの専門チーム「SALA-CSIRT」と密に連携し、被害の最小化と迅速なシステム復旧を図る体制を整備しています。